

市町村及び検診機関に対する がん検診精度管理に係る助言方針案について

青森県がん・生活習慣病対策課

2024(令和6)年12月2日

令和6年度 市町村及び検診機関への助言(案) (協議会后、市町村・検診機関へ共通して通知する)

1. 指針に基づくがん検診の実施

- ① 「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に基づいて、指定されたがん検診の方法を、指定された対象年齢と検診間隔で実施すること。

2. がん検診の実施体制 (市町村)

(1) 検診対象者の情報管理・受診勧奨

- ① 対象者全員に対して、個別に受診勧奨を行うこと。(27/40)
- ② 複数年にわたりがん検診を受けていない者を把握し、積極的に受診勧奨を行うこと。(8/40)
- ③ がん検診の未受診者に対して、当該年度内に個別の受診再勧奨を行うこと。(8/40)
- ④ 喫煙者等のハイリスク群の受診に繋がるような方法を検討すること。(34/40)

※括弧内の数字は、「実施している市町村数/全市町村数」である。(通知時は削除する)
また、分子については、昨年度から「改善」は青字、「増減なし」は黒字、「悪化」は赤字としている。

(2) 受診者の情報管理

- ① 個人別の受診台帳を作成し、過去の受診歴及び精密検査歴を把握し、記録すること。(38/40)

(3) 受診者への説明及び要精検者への説明

- ① 対象者に対して、受診勧奨時にがん検診の意義と要精密検査になった場合に必ず精密検査を受診することが必要であること等を認識させる取組(広報、リーフレット等)を行うこと。(※1) (38/40)
- ② 要精検者全員に対し、受診可能な精密検査機関名の一覧を提示すること。(36/40)

(4) 精密検査結果の把握、精密検査未受診者の特定と受診勧奨

- ① 検診及び精密検査の検査方法や結果が、医療機関から漏れなく報告されていない場合は改善を図ること。(※1) (38/40)
- ② 市町村・検診機関・精密検査機関で精密検査結果を共有すること。(※1) (38/40)
- ③ 精密検査未受診・未把握を正しく区別し、未受診者全員への個別受診勧奨を実施すること。(35/40)

(5) 検診機関の質の担保

- ① 基準に沿った仕様書を作成し、委託検診機関を選定すること。(※1) (38/40)
- ② 検診機関に対して、精度管理評価のフィードバックを行うこと。(26/40)

(6) プロセス指標の集計

- ① 要精検率、がん発見率、陽性反応適中度、早期がん割合を把握し、全体、性別・年齢5歳階級別、検診機関別(集団と個別に分けるだけでなく個々の検診機関別に行う)、検診受診歴別に集計すること。(30/40)

(※1)…市町村と検診機関とで連携して実施されることが望ましい事項。

3. がん検診の実施体制 (集団検診機関)

- ① チェックリスト調査項目のうちで、現在実施されていない項目について改善を図ること。

令和5年度各市町村への助言(案) (協議会后、市町村に個別に通知する)

【参考例】
市町村に通知する詳細な内容(一部抜粋)

個別事項「指針の遵守」

市町村名	自治体名	評価 (要改善項目数) C (4項目)	【県コメント】まずはB評価に向けて指針の再確認及び改善項目を確認してください
------	------	---------------------------	--

別紙2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和6年 月 日付け青が生第 号通知]

※要改善項目が、評価A:0項目, 評価B:1項目, 評価C:2~4項目, 評価D:5項目以上

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針(厚生労働省健康局長通知)に基づき、がん検診を実施する必要があり、評価が×の項目は○となるよう改善が必要です。

検診		令和6年度		評価	検診	令和6年度		評価	改善が必要な事項 (評価が×の項目について)						
種類	方式	検査方法	対象者			種類	方式			検査方法	対象者				
胃がん検診 (X線)	集団	問診・胃部エックス線検査		○	肺がん検診	集団	問診・胸部エックス線検査・喀痰細胞診		○						
		40歳以上の男女		○			40歳以上の男女(喀痰:40歳以上で喫煙指数600以上の男女)		×						
		年1回		○			年1回		○						
	個別	問診・胃部エックス線検査		○		個別	問診・胸部エックス線検査・喀痰細胞診		○	内がん検診 (胃内視鏡)	問診・胸部エックス線検査・喀痰細胞診		○	・検診間隔の遵守が求められる(間隔は2年に1回)	
		40歳以上の男女		○			40歳以上の男女(喀痰:50歳以上で喫煙指数600以上の男女)		○						
		年1回		○			年1回		○						
胃がん検診 (内視鏡)	集団	問診・胃内視鏡検査		○	乳がん検診	集団	問診・乳房エックス線検査		○	大腸がん検診	問診・乳房エックス線検査		○		
		50歳以上の男女		○			40歳以上の偶数年齢の女性		(○)		×:年1回(対象年齢外の者が全額自己負担により受診可能としている場合も含む)	×:年1回(対象年齢外の者が全額自己負担により受診可能としている場合も含む)		×	
	年1回		×	個別		問診・乳房エックス線検査		○	40歳以上の偶数年齢の女性				(○)	・対象者の遵守が求められる(対象は40歳以上の男女及び喀痰は50歳以上で喫煙指数600以上の男女)	
	—					×:年1回(対象年齢外の者が全額自己負担により受診可能としている場合も含む)		×							
大腸がん検診	集団	問診・便潜血検査(2日法)		○	子宮頸がん検診	集団	問診・視診・内診・細胞診(液状検体法)		○	乳がん検診	問診・視診・内診・細胞診(液状検体法)		○	・検診間隔は2年に1回であり、かつ、対象年度に未受診の場合、次年度受診できる体制が求められる	
		40歳以上の男女		○			20歳以上の偶数年齢の女性		(○)		×:年1回(対象年齢外の者が全額自己負担により受診可能としている場合も含む)				
		年1回		○			×:年1回(対象年齢外の者が全額自己負担により受診可能としている場合も含む)		×						
	個別	問診・便潜血検査(2日法)		○		個別	問診・視診・内診・細胞診(液状検体法)		○		20歳以上の偶数年齢の女性		○		・検診間隔は2年に1回であり、かつ、対象年度に未受診の場合、次年度受診できる体制が求められる
		40歳以上の男女		○			×:年1回(対象年齢外の者が全額自己負担により受診可能としている場合も含む)		×						
		年1回		○											

出典:令和6年度がん検診に関する調査(がん・生活習慣病対策課調べ) ※評価は「指針を遵守=○」、「事業全体としては指針を遵守=(○)」、「遵守していない=×」で表しています。

個別事項「市町村チェックリスト」

市町村名 自治体名

評価	(R5実施率平均)	【県コメント】A評価に向けて実施率が極端に低い検診がないか再確認するとともに、優先的に取り組む事項の実施を目指してください
B	(86.2%)	

※実施率平均が、評価A:90%以上、評価B:80%以上90%未満、評価C:80%未満

①チェックリスト実施率の状況

チェックリスト実施率は、検診で最低限整備するべき技術・体制の自己点検結果であり、100%を目指します。(グラフの◆は貴市町村、●は他市町村を表します。)

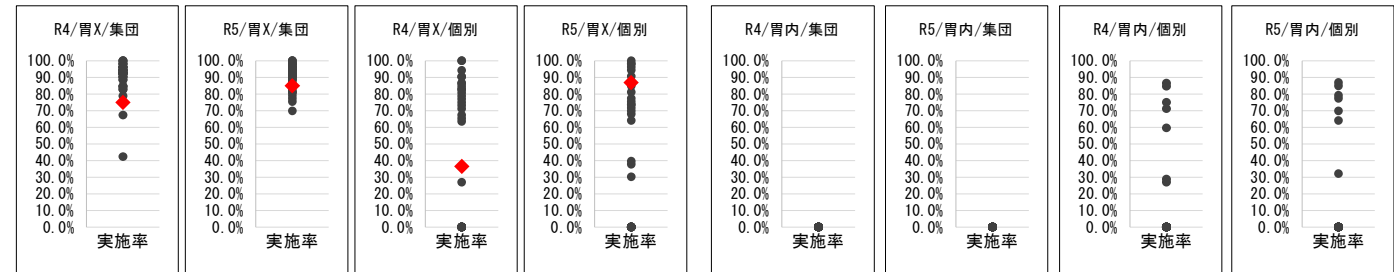
検査方法	検診方式	R4実施率	R5実施率
胃がん検診 (X線)	集団	75.0%	84.9%
	個別	36.5%	86.8%
胃がん検診 (内視鏡)	集団	—	—
	個別	—	—
大腸がん検診	集団	75.0%	84.9%
	個別	36.5%	86.8%
肺がん検診	集団	74.5%	85.7%
	個別	90.2%	87.5%
乳がん検診	集団	76.4%	84.9%
	個別	34.5%	86.8%
子宮頸がん検診	集団	74.5%	85.7%
	個別	76.4%	87.5%

優先的に取り組む必要がある事項

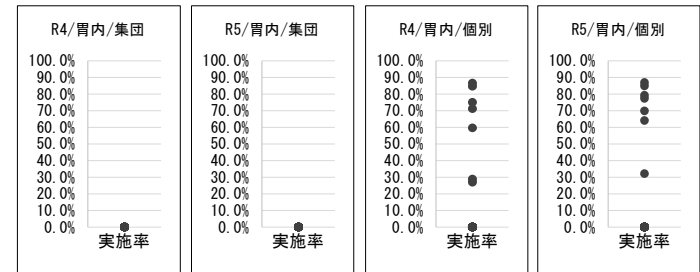
実施率向上にあたっては、次の項目に特に優先的に取り組んでください。

問1-2-1 未受診者の再受診勧奨
問3-2 精密検査機関一覧の提示

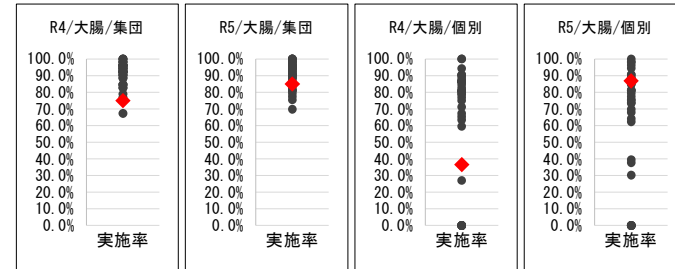
①胃がん検診 (X線) C L 実施率



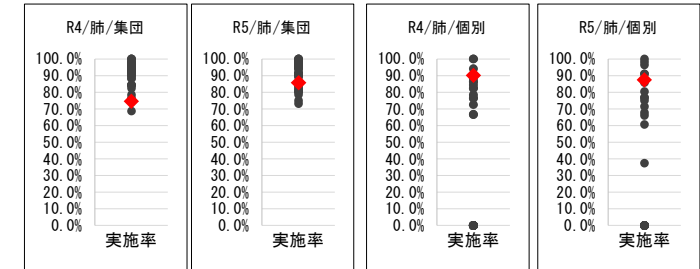
②胃がん検診 (内視鏡) C L 実施率



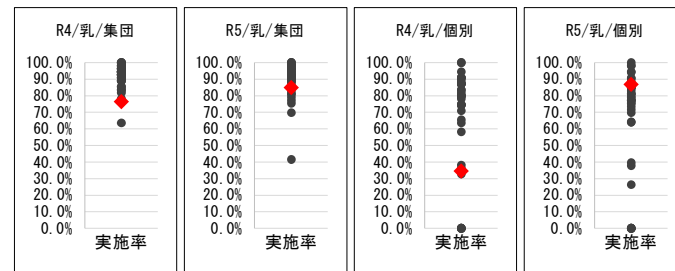
③大腸がん検診 C L 実施率



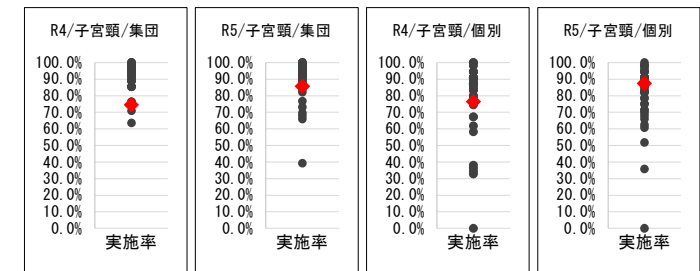
④肺がん検診 C L 実施率



⑤乳がん検診 C L 実施率



⑥子宮頸がん検診 C L 実施率



出典：各年度の事業評価のためのチェックリスト調査（国立がん研究センター、青森県がん・生活習慣病対策課）

※実施率は「○（実施）」の項目を集計したものです。また、前々年度のがん検診が未実施の場合は、問7以降が「-（非該当）」となるため実施率は低くなります。

※前々年度にがん検診を実施している場合、当該年度のがん検診が未実施でも問7以降の回答が必要のため実施率の算出が可能です。本資料では実施率の掲載はしていません。（「-」と表示）

個別事項「プロセス指標」

自治体名

自治体名

胃がん検診（胃部X線）

プロセス指標	基準値等	自治体名	圏域名	青森県	全国	対象年度	対象年齢
検診受診率	30%以上※1	3.5%	4.1%	8.3%	2.8%	令和4年度	50～74歳 男女計
要精検率	7.6%以下	2.3%	2.3%	2.3%	2.0%	令和3年度	50～74歳 男女計
精検受診率	90%以上	78.1%	77.1%	77.5%	80.7%	令和3年度	50～74歳 男女計
精検未受診率	20%以下※2	3.0%	2.5%	8.0%	8.0%	令和3年度	50～74歳 男女計
精検未把握率	10%以下※2	18.9%	20.4%	14.5%	11.3%	令和3年度	50～74歳 男女計
陽性反応適中度	1.5%以上	1.2%	1.4%	1.1%	1.6%	令和元～令和3年度	50～74歳 男女計
がん発見率	0.11%以上	0.10%	0.12%	0.09%	0.11%	令和元～令和3年度	50～74歳 男女計

※1 プロセス指標で求められている目標値(60%以上)と算定方法が異なるため、便宜上30%を最大値としてグラフを作成する。

※2 旧プロセス指標値。令和6年1月改正のプロセス指標では、「精検未受診率と精検未把握率の合計が10%未満」となっている。

※3 胃部内視鏡検査も実施している場合、検診受診率が見かけ上、低くなっている可能性がある。

【県コメント】

<検診受診率>
県平均以下となっています。対象者を全員把握できているか、対象者へのコール・リコールが実施できているか、受診者の利便性（休日夜間の検診、バス送迎等）が確保できているか等検討してください。

<精検受診率>
基準値以上となるよう、精検受診勧奨が適切に実施できているか、精検受診者の利便性が確保できているか等検討してください。併せて、精検未把握率が高くなっていないか確認してください。精検受診率が低いと陽性反応適中度とがん発見率は正確に評価できません。

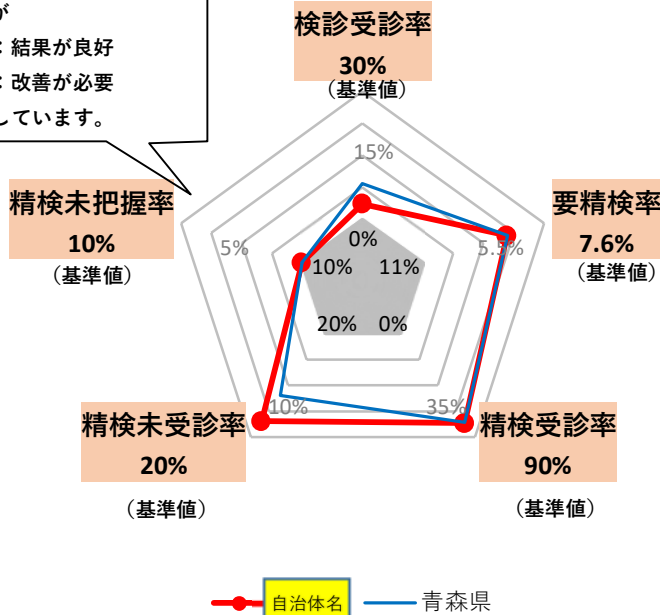
<精検未受診率>
基準値以下となっていますが、精検未把握率が高い場合、見かけ上未受診率が低くなることに注意してください。

<精検未把握率>
基準値以下となるよう、「精検受診の有無及び精検結果」を確実に把握できる体制ができているか検討してください。

プロセス指標(抜粋) 結果

レーダーチャートが
大きい場合：結果が良好
小さい場合：改善が必要
を表しています。

※精密検査の未受診と未把握の分類の仕方は下記で確認できます。
→参考資料3 参照



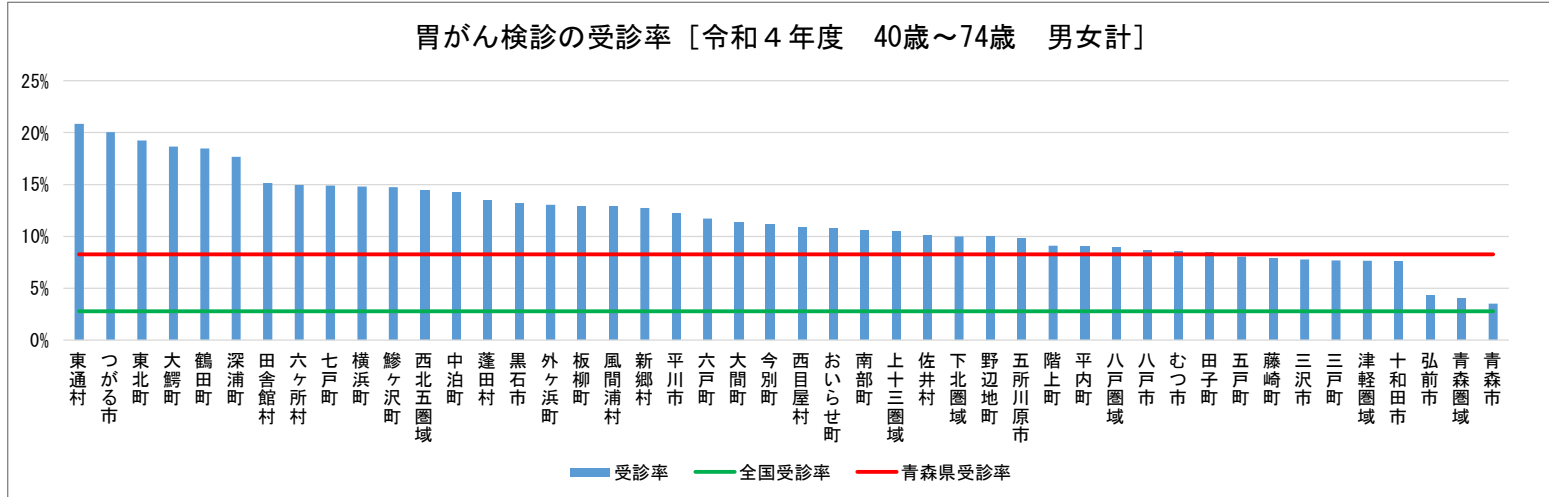
※要精検率については、低すぎる（レーダーチャートが大きすぎる）時も、問題がある場合があります。
→参考資料4 参照

個別事項「プロセス指標」

令和3年度 胃がん検診（胃部X線）プロセス指標－受診率－

自治体名	自治体名
------	------

1. 胃がん検診（胃部X線）の受診率



指標の意義・一般的な対策

- ・受診率は、高い方が望ましい指標です。精度管理により検診の質を高めた上で、受診率を上げていく必要があります。
- ・性別・年齢階級別／検診機関別／検診歴別（初回・非初回別）の集計・分析は、課題を検討し、対策を講じるうえで必要となるため、台帳の電子システム化等により行えるようにすることが必要です。
- ・特定の年齢層の受診率が低い場合や、初回受診者が少ない場合、個別の受診勧奨・再勧奨の実施や、検診の提供体制（キャパシティ、利便性等）の改善について検討が必要です。

<胃がん検診（胃部X線）の受診率 [令和4年度 40歳～74歳 男女計]>

区分	全国	青森県	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	青森市	弘前市	八戸市	黒石市	五所川原市	十和田市	三沢市	むつ市	つがる市	平川市
受診率	2.8%	8.3%	4.1%	7.7%	8.9%	14.4%	10.5%	10.0%	3.5%	4.3%	8.6%	13.2%	9.7%	7.6%	7.8%	8.6%	20.1%	12.2%
順位	—	—	—	—	—	—	—	—	40位	39位	31位	14位	28位	38位	36位	32位	2位	19位
受診者数	1,649,107	51,358	6,102	10,365	13,777	8,872	8,691	3,551	4,903	3,466	9,470	2,146	2,595	2,303	1,401	2,401	3,006	1,858
対象者数	59,203,380	620,270	150,336	135,405	154,708	61,735	82,597	35,489	139,283	81,296	109,582	16,262	26,653	30,268	17,987	27,928	14,991	15,182
区分	平内町	今別町	蓬田村	外ヶ浜町	鱒ヶ沢町	深浦町	西目屋村	藤崎町	大鰐町	田舎館村	板柳町	鶴田町	中泊町	野辺地町	七戸町	六戸町	横浜町	東北町
受診率	9.0%	11.1%	13.5%	13.1%	14.7%	17.7%	10.9%	7.8%	18.7%	15.1%	12.9%	18.5%	14.2%	9.9%	14.9%	11.7%	14.8%	19.2%
順位	30位	22位	13位	15位	11位	6位	23位	35位	4位	7位	16位	5位	12位	27位	9位	20位	10位	3位
受診者数	507	130	181	381	715	684	65	566	853	560	851	1,122	750	630	1,145	629	304	1,581
対象者数	5,624	1,168	1,343	2,918	4,854	3,868	597	7,212	4,572	3,698	6,586	6,076	5,293	6,343	7,683	5,368	2,056	8,226
区分	六ヶ所村	おいらせ町	大間町	東通村	風間浦村	佐井村	三戸町	五戸町	田子町	南部町	階上町	新郷村						
受診率	15.0%	10.7%	11.3%	20.8%	12.8%	10.1%	7.7%	8.0%	8.5%	10.5%	9.1%	12.7%						
順位	8位	24位	21位	1位	17位	26位	37位	34位	33位	25位	29位	18位						
受診者数	698	1,346	293	640	120	97	365	667	223	924	638	144						
対象者数	4,666	12,545	2,594	3,073	934	960	4,755	8,288	2,630	8,759	7,018	1,131						

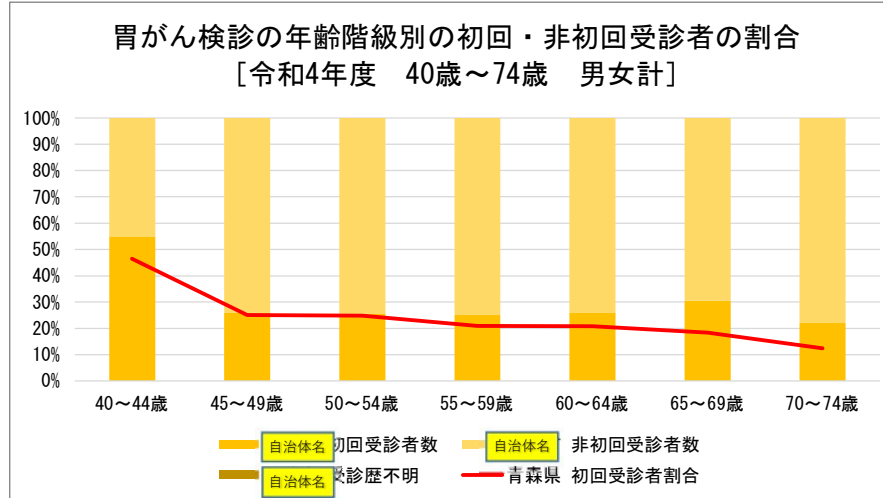
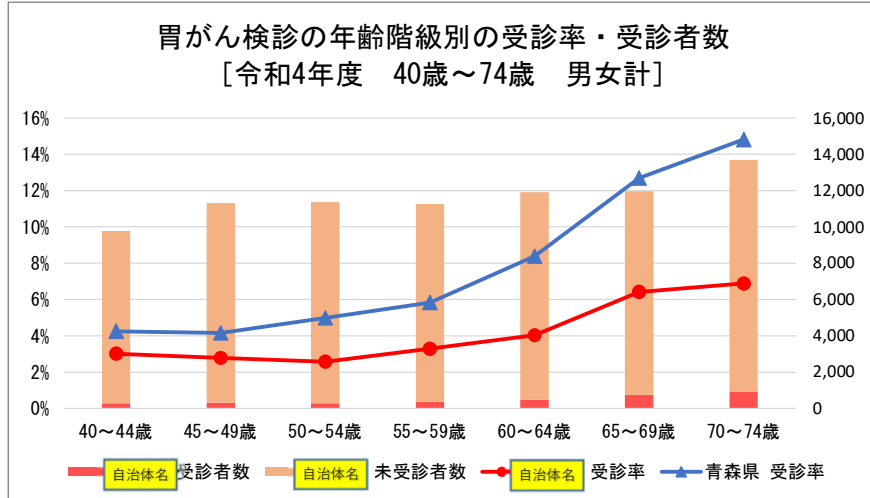
[受診率の計算方法について]
 受診者数÷対象者数=受診率
 ※他のプロセス指標に合わせ、75歳未満の受診率を計算しているため他の統計の受診率と異なる。
 ※胃内視鏡検査も実施している場合、検診受診率が見かけ上、低くなっている可能性がある。

(出典：2022(R4)年度地域保健・健康増進事業報告) ※対象者数(分母)は対象年齢の全住民で、受診者数(分子)は市町村事業の受診者数であり、職域や人間ドックで受診している者は含まれていない。

自治体名

自治体名

2. 胃がん検診（胃部X線）の受診者の状況

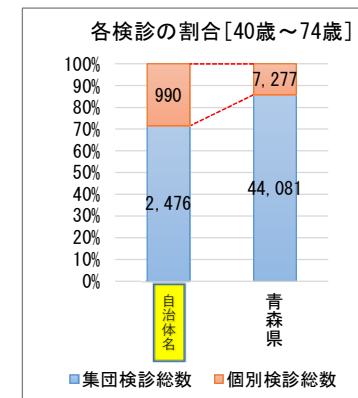


<胃がん検診（胃部X線）の年齢階級別の受診者数・受診率 [令和4年度 男女計]>

区分		40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～69歳	40～74歳
自治体名	対象者数	9,789	11,304	11,368	11,259	11,914	11,976	13,686	31,129		112,425	67,610	81,296
	受診者数	296	315	293	371	480	769	942	631	515	4,612	2,524	3,466
	初回受診者数	162	82	75	93	125	235	208	165	107	1,252	772	980
	非初回受診者数	134	233	218	278	355	534	734	466	408	3,360	1,752	2,486
	受診歴不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	受診率	3.0%	2.8%	2.6%	3.3%	4.0%	6.4%	6.9%	3.7%		4.1%	3.7%	4.3%
青森県	対象者数	72,772	85,437	86,779	82,480	89,672	95,230	107,900	220,025		840,295	512,370	620,270
青森県	受診者数	3,090	3,553	4,323	4,815	7,519	12,079	15,979	10,081	6,579	68,018	35,379	51,358
青森県	初回受診者数	1,437	890	1,070	1,011	1,567	2,224	1,989	1,328	818	12,334	8,199	10,188
青森県	非初回受診者数	1,628	2,634	3,225	3,777	5,917	9,794	13,897	8,725	5,739	55,336	26,975	40,872
青森県	受診歴不明	25	29	28	27	35	61	93	28	22	348	205	298
青森県	受診率	4.2%	4.2%	5.0%	5.8%	8.4%	12.7%	14.8%	7.6%		8.1%	6.9%	8.3%

※初回受診者＝過去3年間に受診歴がない者

※非初回受診者＝過去3年間に受診歴がある者



※受診者数はR4年度の受診者数である。

※初回受診者数と非初回受診者数の合計が受診者数と一致しない、または初回受診者数と非初回受診者数を計上していない市町村があるため、そのような場合は受診歴不明として計上している。

※対象者数から受診者数を除いた人数を未受診者数と定義しているが、実際は職場や人間ドック等でがん検診を受診している者が含まれている。

(出典：2022 (R4) 年度地域保健・健康増進事業報告)

個別事項「プロセス指標」 (別紙4とは対象年度が異なる点に留意)

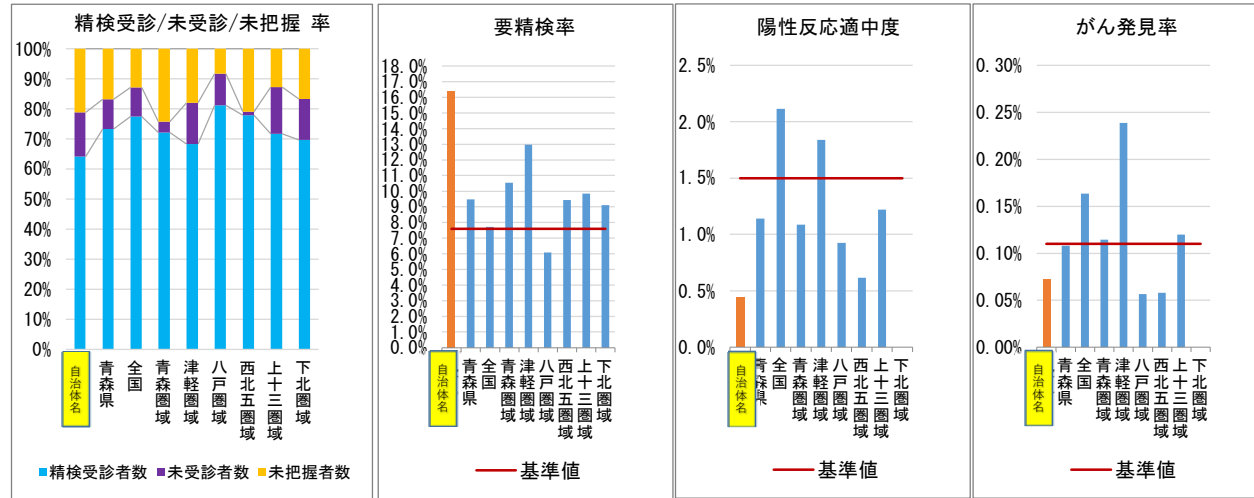
別紙4_参考2

がん検診に関して市町村等が取り組むべき事項
[令和6年 月 日付け青が生第 号通知]

令和元～令和3年度 胃がん検診(胃部X線)プロセス指標-受診率を除く-

自治体名	自治体名
------	------

1. 胃がん検診(胃部X線)のプロセス指標(受診率を除く)



※基準値以下で極端な高低がないこと ※基準値以上で極端な高低がないこと ※基準値以上で極端な高低がないこと

<胃がん検診(胃部X線)のプロセス指標 [令和元～令和3年度 50歳～74歳 男女計]>

区分	自治体名	青森県	全国	青森圏域	津軽圏域	八戸圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	基準値
受診者数	1,381	20,361	619,766	2,619	4,184	5,324	3,449	3,336	1,449	—
要精検者数	226	1,928	47,943	276	543	324	325	328	132	—
未把握者数	48	324	6,183	67	98	27	68	42	22	—
未受診者数	33	191	4,645	10	74	34	4	51	18	—
精検受診者数	145	1,413	37,115	199	371	263	253	235	92	—
がんであった者	1	22	1,014	3	10	3	2	4	0	—
要精検率	16.4%	9.5%	7.7%	10.5%	13.0%	6.1%	9.4%	9.8%	9.1%	7.6% 以下
精検受診率	64.2%	73.3%	77.4%	72.1%	68.3%	81.2%	77.8%	71.6%	69.7%	90% 以上
未受診率+未把握率	35.8%	26.7%	22.6%	27.9%	31.7%	18.8%	22.2%	28.4%	30.3%	10% 以下
陽性反応適中度	0.4%	1.1%	2.1%	1.1%	1.8%	0.9%	0.6%	1.2%	0.0%	1.5% 以上
がん発見率	0.07%	0.11%	0.16%	0.11%	0.24%	0.06%	0.06%	0.12%	0.00%	0.11% 以上

※要精検率のプロセス指標について、受診間隔は1年間隔のものである。

指標の意義・一般的な対策	
精検受診率 未受診率 未把握率	<ul style="list-style-type: none"> 要精検者の精検受診状況を測る指標です。 精検受診率が低ければ、死亡率減少につながらないため、検診受診率よりも精検受診率向上が優先されます。また、100%に近くなければ、がん発見率等を適切に評価できません。 精検結果回収の仕組みを整備し、精検未受診・未把握を適切に分類して、精検受診勧奨に取り組むことで、精検受診率100%に向けて取り組む必要があります。
要精検率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているかを測る指標です。対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 要精検率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
陽性反応適中度	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、効率よくがんが発見されたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 陽性反応適中度が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陽性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。
がん発見率	<ul style="list-style-type: none"> 検診において、適正な頻度でがんを発見できたかを測る指標です。基本的に高いことが望ましいですが、極端な高値あるいは低値の場合は検討が必要となります。 がん発見率が高い場合は有病率の高い集団に偏っていることが、低い場合は有病率の低い集団に偏っていることや偽陰性が多いことが原因と予想されるため検討が必要となります。

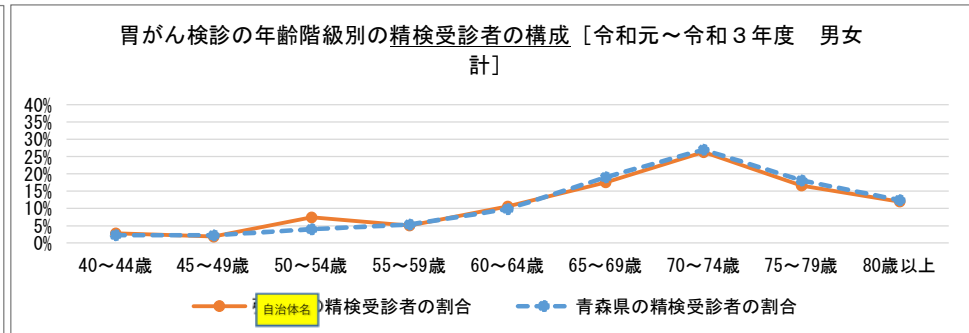
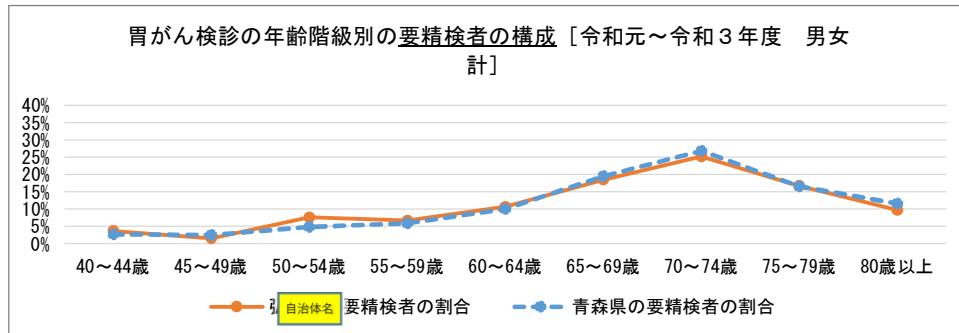
[計算方法] ●要精検率=精検受診者数÷受診者数、●精検受診率=精検受診者数÷要精検者数、●未受診率=未受診者数÷要精検者数、●未把握率=未把握者数÷要精検者数、●陽性反応適中度=がんであった者÷要精検者数、●がん発見率=がんであった者÷受診者数

(出典：R2～R4年度地域保健・健康増進事業報告)

自治体名

自治体名

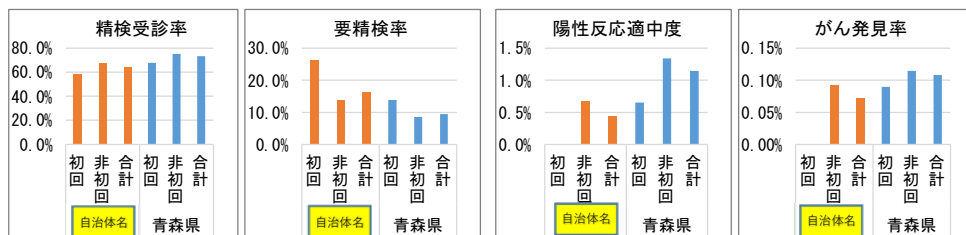
2. 胃がん検診（胃部X線）の年齢階級別・受診歴別・検診方式別のプロセス指標



<胃がん検診（胃部X線）の年齢階級別の要精検者数・精検受診者数・精検受診率 [令和元～令和3年度 男女計]>

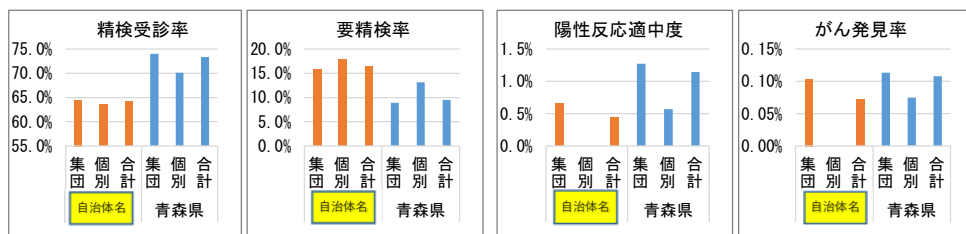
区分	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上	合計	40～74歳	
自治体名	要精検者数	12	5	25	22	35	61	83	55	330	243	
	精検受診者数	6	4	16	11	23	38	57	36	217	155	
	精検受診率	50.0%	80.0%	64.0%	50.0%	65.7%	62.3%	68.7%	65.5%	81.3%	65.8%	63.8%
青森県	要精検者数	76	71	137	168	288	562	773	477	2,886	2,075	
青森県	精検受診者数	49	48	87	115	213	412	586	393	2,172	1,510	
青森県	精検受診率	64.5%	67.6%	63.5%	68.5%	74.0%	73.3%	75.8%	82.4%	80.5%	75.3%	72.8%

<胃がん検診（胃部X線）の受診歴別のプロセス指標 [令和元～令和3年度 50歳～74歳 男女計]>



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率	
自治体名	初回	293	77	45	0	26.3%	58.4%	0.0%	0.00%
	非初回	1,088	149	100	1	13.7%	67.1%	0.7%	0.09%
	合計	1,381	226	145	1	16.4%	64.2%	0.4%	0.07%
青森県	初回	3,346	461	312	3	13.8%	67.7%	0.7%	0.09%
青森県	非初回	16,617	1,422	1,067	19	8.6%	75.0%	1.3%	0.11%
青森県	合計	20,361	1,928	1,413	22	9.5%	73.3%	1.1%	0.11%

<胃がん検診（胃部X線）の検診方式別のプロセス指標 [令和元～令和3年度 50歳～74歳 男女計]>



区分	受診者数	要精検者数	精検受診者数	がんであった者	要精検率	精検受診率	陽性反応適中度	がん発見率	
自治体名	集団検診	964	152	98	1	15.8%	64.5%	0.7%	0.10%
	個別検診	417	74	47	0	17.7%	63.5%	0.0%	0.00%
	合計	1,381	226	145	1	16.4%	64.2%	0.4%	0.07%
青森県	集団検診	17,684	1,577	1,167	20	8.9%	74.0%	1.3%	0.11%
青森県	個別検診	2,677	351	246	2	13.1%	70.1%	0.6%	0.07%
青森県	合計	20,361	1,928	1,413	22	9.5%	73.3%	1.1%	0.11%

(出典：R2～R4年度地域保健・健康増進事業報告)

市町村別一覧表(別紙2～9の評価結果に基づく)

※この資料も通知する

評価結果	指針の遵守 要改善項目数 (別紙2)	市町村 CL 実施率 (別紙3)	5がん検診 受診率平均 (別紙4～9)	5がん精検 受診率平均 (別紙4～9)
県平均	1.4 項目	85.6%	12.0%	82.7%
青森市	0 項目 →	82.4% ↑	7.0% ↑	84.3% ↑
弘前市	0 項目 ↑	62.3% ↑	12.1% ↑	78.5% ↓
八戸市	3 項目 →	92.6% ↑	12.9% ↑	87.3% ↑
黒石市	0 項目 ↑	86.1% ↓	20.5% ↓	90.4% ↑
五所川原市	0 項目 →	94.2% ↑	17.4% ↑	74.0% ↓
十和田市	0 項目 →	82.7% ↑	13.6% ↑	79.7% ↑
三沢市	0 項目 ↑	81.0% ↑	12.6% ↑	77.0% ↑
むつ市	0 項目 →	100.0% →	12.8% ↑	78.2% ↑
つがる市	0 項目 ↑	92.1% ↑	28.7% ↑	83.7% ↓
平川市	0 項目 →	81.8% ↓	15.9% ↑	84.4% ↓
平内町	2 項目 ↑	91.4% ↑	15.0% ↑	79.1% ↓
今別町	2 項目 →	74.0% ↓	18.7% ↓	44.3% ↓
蓬田村	3 項目 →	67.0% ↑	20.1% ↓	68.7% ↑
外ヶ浜町	0 項目 →	89.4% ↓	18.9% ↓	90.2% ↑
鱒ヶ沢町	0 項目 ↑	92.1% ↑	16.6% ↓	79.5% ↓
深浦町	0 項目 →	94.7% ↑	24.2% ↑	89.6% ↓
西目屋村	2 項目 →	83.1% ↓	26.6% ↑	100.0% ↑
藤崎町	2 項目 →	78.8% ↑	15.3% ↑	63.0% ↑
大鰐町	2 項目 →	94.4% ↑	28.2% ↑	81.7% ↓
田舎館村	0 項目 →	84.8% ↑	24.1% ↑	81.9% ↓
板柳町	2 項目 →	77.9% ↑	19.1% ↑	89.0% ↑
鶴田町	2 項目 →	93.4% ↓	26.9% ↑	90.1% ↑
中泊町	0 項目 ↑	92.4% ↑	20.9% ↑	88.0% ↓

評価結果	指針の遵守 要改善項目数 (別紙2)	市町村 CL 実施率 (別紙3)	5がん検診 受診率平均 (別紙4～9)	5がん精検 受診率平均 (別紙4～9)
野辺地町	8 項目 ↓	71.3% ↑	13.8% ↓	93.6% ↑
七戸町	0 項目 →	90.8% ↓	20.3% ↑	65.5% ↓
六戸町	2 項目 →	90.8% ↓	18.6% ↓	71.3% ↓
横浜町	3 項目 ↑	98.4% ↑	21.3% ↑	72.1% ↓
東北町	0 項目 →	75.1% ↑	23.4% ↑	86.9% ↓
六ヶ所村	3 項目 ↑	88.0% ↑	24.4% ↑	74.1% ↓
おいらせ町	2 項目 →	94.9% ↑	15.6% ↓	85.5% ↑
大間町	5 項目 ↓	93.2% ↓	15.2% ↑	61.3% ↑
東通村	0 項目 ↑	98.6% ↑	25.4% ↓	64.0% ↓
風間浦村	0 項目 →	81.6% ↓	17.6% ↓	80.0% ↓
佐井村	0 項目 ↑	88.7% ↑	20.4% ↑	73.5% ↑
三戸町	0 項目 ↑	75.3% ↓	12.3% ↑	76.4% ↑
五戸町	2 項目 →	69.3% ↓	14.1% ↓	87.6% ↓
田子町	2 項目 →	98.2% ↑	16.5% ↓	72.1% ↓
南部町	2 項目 ↑	91.7% ↑	19.6% ↓	85.9% ↑
階上町	2 項目 →	63.1% ↓	14.0% ↓	84.1% ↓
新郷村	4 項目 ↑	86.2% ↑	21.6% ↓	84.8% ↑

※県平均よりも結果が良好な項目は、黄色で表示しています。

※昨年度結果と比較して改善した項目は↑、現状を維持した項目は→、悪化した項目は↓で表示しています。

指針に基づくがん検診について

※この資料も通知する

がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針（厚生労働省健康局長通知）

がん検診の種類	がん検診の内容		
	検査方法	対象者※ ¹	受診間隔
胃がん検診	①問診、胃部エックス線検査 ②問診、胃内視鏡検査	① 50歳以上の男女※ ² ※ 2. 当分の間、エックス線検査は40歳以上も可	① 2年に1回※ ³ ※ 3. 当分の間、エックス線検査は年1回も可
大腸がん検診	問診、便潜血検査（2日法）	40歳以上の男女	年1回
肺がん検診	質問、胸部エックス線検査、喀痰細胞診（原則50歳以上で喫煙指数が600以上の方のみ。過去の喫煙者も含む。）	40歳以上の男女	年1回
乳がん検診	問診、乳房エックス線検査（マンモグラフィ）	40歳以上の女性	2年に1回※ ⁴
子宮頸がん検診※ ⁵	問診、視診、子宮頸部の細胞診、内診	20歳以上の女性	2年に1回※ ⁴

※ 1…いずれの検診においても、受診を特に推奨する者は69歳以下の者とする。

※ 4…前年度が受診すべき年であったが、何らかの理由により受診できなかった者は、当該年度に受診できるようにすること。（偶数歳での受診を基本としている場合、42歳の年に未受診であれば43歳の年でも受けられるようにする。）

※ 5…指針の令和6年2月14日付け一部改正により、HPV検査単独法が追加された。

資料3-4（別添）プロセス指標の意味と活用方法

プロセス指標	各指標の意味（算出方法）	各指標値の評価	基準値 ^{※1}	値が適正でない場合の検討事項		
				指標値	予想される原因	検討内容
受診率	検診を受けるべき対象者が、実際に検診を受けたか ●算出方法： 受診者数／対象者数	高いことが望ましい （がん検診によって死亡率を減少させるためには、検診の質を高く保つことが第一の条件で、その上で受診率が高いことが必要である。よって、受診率が高いこと以上にその他の指標（特に精検受診率）の改善が重要である。）	胃がん（X線）：60% 以上（50-69歳） 大腸がん：60% 以上（40-69歳） 肺がん：60% 以上（40-69歳） 乳がん：60% 以上（40-69歳） 子宮頸がん：60% 以上（20-69歳）	高値	（高い方が望ましい） しかし、以下のような問題がある可能性もある	
				①	対象者を把握していない（対象者の名簿が作成されていない）	① 対象者全員を把握できているか（本来対象者に含むべき者が含まれていないということがないかを確認する）
				①	対象者を把握していない（対象者の名簿が作成されていない）	① 対象者全員を把握できているか
				低値	② 受診動員を実施していない	② 対象者全員に受診動員を実施しているか、未受診者に再受診動員を実施しているか、検診の重要性を十分に伝えているか
					③ 検診の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）	③ 受診者の利便性（休日夜間の検診、バス送迎等）
要精検率	検診において、精密検査の対象者が適切に絞られているか ●算出方法： 要精検者数／受診者数	対象集団に応じて適切な範囲があり、極端な高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要	胃がん（X線）：7.7% 以下（50-74歳） 大腸がん：6.8% 以下（40-74歳） 肺がん：2.4% 以下（40-74歳） 乳がん：6.5% 以下（40-74歳） 子宮頸がん：2.5% 以下（20-74歳） 4.2% 以下（20-39歳） 1.9% 以下（40-74歳）	高値	① 受診者が有病率の高い集団に偏っている	① 有症状者が検診を受けていないか（有症状者は診療を受けるよう指導する）、有病率の高い年齢層、有病率の高い初回受診者に偏っていないか
				②	偽陽性が多い	② 各検診機関の要精検の判定基準は適切か（陽性反応適中度が低い場合、本来は精検が不要な者を要精検と判定している可能性がある）
				①	受診者が有病率の低い集団に偏っている	① 有病率の低い年齢層に偏っていないか（年齢層、受診歴等）
				極端に低値	② 偽陰性が多い	② 各検診機関の要精検の判定基準、検査手技、読影等は適切か
精検受診率	要精検者が、実際に精密検査を受診したか ●算出方法： 精検受診者数／要精検者数	高いことが望ましい （精検受診率が100%近くなければ、がん発見率や陽性反応適中度を適切に評価できない。）	5がん共通：90% 以上	高値	（100%に近いことが理想）	
					① 精検受診の有無について未把握が多い	① 精検受診の有無を確実に把握できる体制が出来ているか
					② 精検結果の未把握が多い（もし精検を受診しても、その結果が把握できない場合は‘精検受診’にカウントされない）	② 精検結果を確実に把握できる体制が出来ているか（精検結果の報告・回収ルート）
					③ 精検の受診動員が適切でない	③ 受診者に予め「要精検の場合は必ず精検を受けること」を伝え、かつ、全ての要精検者に精検の重要性を十分に伝えているか
				④ 精検の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）	④ 精検受診者の利便性	
精検未受診率	要精検者が、実際に精密検査を受診したか ●算出方法： 未受診者数／要精検者数	低いことが望ましい （精検受診率が100%近くなければ、がん発見率や陽性反応適中度を適切に評価できない。）	5がん共通：精検未受診率＋未把握率が10% 未満	高値	① 精検の受診動員が適切でない	① 受診者に予め「要精検の場合は必ず精検を受けること」を伝え、かつ、全ての要精検者に精検の重要性を十分に伝えているか
				②	精検の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）	② 精検受診者の利便性
				低値	（0%に近いことが理想） ただし精検未把握率が高い場合は、見かけ上未受診率も低くなることに注意が必要	
精検未把握率	精検受診の有無や精検結果が適切に把握されたか ●算出方法： 未把握者数／要精検者数	低いことが望ましい （精検受診の有無や結果がほぼ100%把握できなければ、精検受診率、未受診率、がん発見率、陽性反応適中度を適切に評価できない。）	5がん共通：90% 以上	高値	① 精検の受診動員が適切でない	① 受診者に予め「要精検の場合は必ず精検を受けること」を伝え、かつ、全ての要精検者に精検の重要性を十分に伝えているか
				②	精検の提供体制が不十分（キャパシティ、アクセス）	② 精検受診者の利便性
				低値	（0%に近いことが理想）	
がん発見率 ^{※2}	その検診において、適正な頻度でがんを発見できたか ●算出方法： がんであった者（子宮頸がんでは、がん、AIS、CIN3であった者の和 ^{※3} ）／受診者数	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要 （精検受診率が低い場合や、自治体の精検結果の把握状況に漏れがある場合は正確に評価できない。）	胃がん（X線）：0.19% 以上（50-74歳） 大腸がん：0.21% 以上（40-74歳） 肺がん：0.10% 以上（40-74歳） 乳がん：0.40% 以上（40-74歳） 子宮頸がん ^{※2} ：0.15% 以上（20-74歳） 0.18% 以上（20-39歳） 0.14% 以上（40-74歳）	極端に高値	受診者が有病率の高い集団に偏っている	有症状者が検診を受けていないか（有症状者は診療を受けるよう指導する）、有病率の高い年齢層、有病率の高い初回受診者に偏っていないか
				①	受診者が有病率の低い集団に偏っている	① 有病率の低い年齢層に偏っていないか（年齢層、受診歴等）
				②	偽陰性が多い	② 各検診機関の要精検の判定基準、検査手技、読影等は適切か
陽性反応適中度 ^{※2※3}	その検診において、効率よくがんが発見されたか（検診の精度を測る指標） ●算出方法： がんであった者（子宮頸がんでは、がん、AIS、CIN3であった者の和 ^{※3} ）／要精検者数	基本的に高いことが望ましいが、極端に高値、あるいは低値の場合は更に検討が必要 （精検受診率が低い場合や、自治体の精検結果の把握状況に漏れがある場合は正確に評価できない。）	胃がん（X線）：2.5% 以上（50-74歳） 大腸がん：3.0% 以上（40-74歳） 肺がん：4.1% 以上（40-74歳） 乳がん：6.1% 以上（40-74歳） 子宮頸がん ^{※2} ：5.9% 以上（20-74歳） 4.4% 以上（20-39歳） 7.3% 以上（40-74歳）	極端に高値	① がん発見率が高すぎる	① がん発見率が「極端に高値」の場合の内容を参照
				②	要精検率が低すぎる	② 要精検率が「極端に低値」の場合の内容を参照
				低値	① がん発見率が低すぎる	① がん発見率が「低値」の場合の内容を参照
				②	要精検率が高すぎる	② 要精検率が「高値」の場合の内容を参照

※1 基準値 受診率：第4期がん対策推進基本計画（令和5年3月）で示された国民生活基礎調査によるがん検診受診率の目標値
 受診率以外：厚生労働省「がん検診のあり方に関する検討会報告書「がん検診事業のあり方について（令和5年6月）」別添6より（以下、報告書）<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/000059490.html>（厚労省HP）
 同報告書では、全国の標準的な性・年齢階級に基づいた基準値（上限74歳、上限69歳）の他に、男女別・年齢5歳階級別・検診受診歴別の基準値が示されている。自治体によって対象集団に偏りがある場合は、それぞれの対象集団に応じた基準値を用いた評価が可能である。
 ※2 子宮頸がん検診においては前がん病変であるCIN3を発見することで子宮頸がんの罹患を減らすことが検診の効果となる。よって、子宮頸がん検診における、がん発見率・陽性反応適中度の算出には「CIN3以上（AIS含む）」を用いるとされている。
 ※3 陽性反応適中度は、要精検率とがん発見率から算出される指標であるため、精度管理指標として用いるには、これら2指標がともに基準値を満たしていることが前提となる。
 よって、陽性反応適中度が基準値を満たしていても、2指標のいずれかが基準値を満たしていない場合は精度管理状態が良いとは評価できない。